

NEO タムダス

第132号
2017年

灯油ボイラーの話

電器店である小店では常々給湯設備としてエコキュートをお奨めしていますが、設置場所、納期、予算の問題で灯油ボイラーを取り付けることも多々あります。そこで今回は灯油ボイラーについて解説したいと思います。

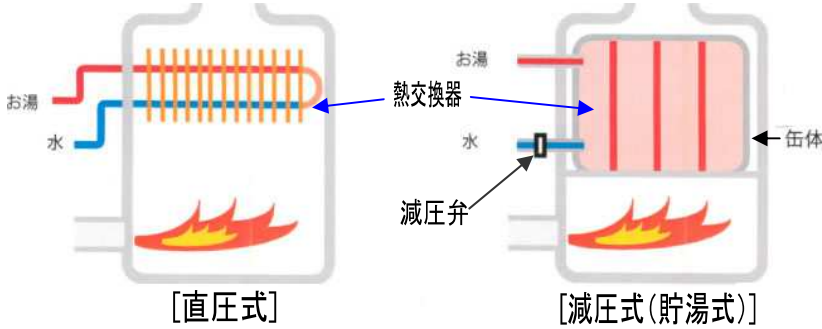


構造的な種類

直圧式(下図左)は水道の圧力そのままでお湯を出すことが出来ますので、2階でのシャワーもストレス無しで使えます。

欠点は配管が古いと破れる恐れがあるので注意が必要です。

減圧式(下図右)はボイラー内の缶体に貯湯するタイプで缶体を保護するために減圧弁というものが付いており、出湯圧力は低くなりますので、2階への給湯は難し



始めましょう

インターネット

パソコン選びからサポートまで



いですが 最近では減圧式高圧力タイプもあります。

長所はお湯を出したり止めたりしても温度の変動が少ない、少量でも湯が出る、古い配管でも利用可能、長寿命ということがあります。

本体価格は直圧型の方がやや高めです。

機能的な種類

機能的にはフルオート オート給湯専用の3つに大別できます。

●フルオート：自動湯張り(水位設定)、自動保温、自動足し湯が出来ます。

●オート：自動湯張り(水量設定)、自動保温が出来ます。

●給湯専用：給湯栓から手で湯張り、足し湯をします。

※水位設定と水量設定について：残り湯があった場合、水位設定では正しく湯張りが出来ませんが、水量設定ではうまく張れません。

フルオート、オート機種を施工の場合は湯張り用循環配管施工が必要になります。この循環配管はお風呂の湯が循環しますので汚れが気になりますが、配管クリーン運転機能が付いていて清潔に保

つ工夫がされています。

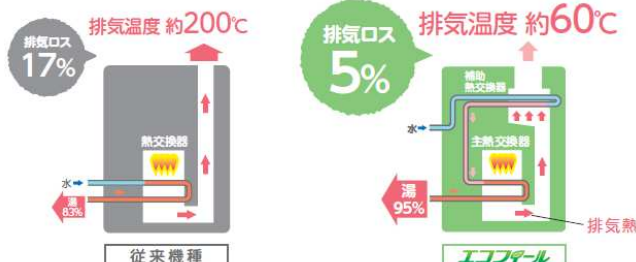
「エコフィール」

ボイラーの効率化を謀るために開発されたものにエコフィールという機種があります。

灯油ボイラーは灯油を燃やして湯を沸かします。この部分を熱交換器と呼びます。(土図参照)

従来型のボイラーでは湯を沸かす効率では約83%で17%のエネルギーが廃熱として無駄に大気中に放出されていました。

エコフィールでは熱交換器をもつひとつ付け足して補助熱交換器(、廃熱で水をあらかじめ温めてから主熱交換器へと導き沸かします。これにより沸きあげ効率は95%となり、灯油が節約できます。試算によれば4人家族の家庭で年間ポリ缶18し4.4缶分の節約になります。



灯油タンク

灯油ボイラーには必ず灯油タンクが必要ですが、タンクの底には必ず水が溜まりますのでステンレス製のタンクをお奨めします。

おわり

